

みつけた！



六ヶ所村の魅力を発掘・発見・発信！

企画展：昔の暮らしの移り変わり（開拓編）

戦後の大きな問題として食糧確保があり、その打開策として、満州からの引揚者や村内外からの二男三男による開拓が推し進められました。1946年千歳地区豊瀬に上北町から8名が入植。1947年上弥栄に満州からの引揚者が入植。庄内地区に山形県の庄内地方出身者の設営隊25名が入植。1950年豊原地区に樺太からの引揚者18戸入植。その後、1959年北部上北機械開墾（睦栄・豊瀬）に48戸の農家が入植し、事業は1962年完成しています。

当初の開拓は、人力・畜力開墾で、大変な苦勞をして開墾を進められました。馬鈴薯・大豆・小豆・菜種などの畑作中心の農業が軌道に乗り始めた頃の昭和28年29年、大冷害に見舞われ畑作は皆無作となり、開拓の人々は、冷害に強い酪農経営の道を選択しました。北部上北機械開墾も始まり、いよいよ国内有数の酪農地帯が形成されていきました。江戸時代から有戸野と呼ばれたこの広大な台地は、現在、人々の努力により、青森県の生乳生産量の約25%を占める一大酪農地帯と変貌しました。



ランプ



25L集乳缶



入植前の広大な台地（六原）

『30年のあゆみ』北部上北酪農業協同組合 昭和61年



馬鈴薯の収穫

庄内地区自治会より提供



入植当時のランプ生活

庄内地区自治会より提供



リヤカーで集乳所まで牛乳運搬

『30年のあゆみ』北部上北酪農業協同組合 昭和



ローダーによる積込運搬

『30年のあゆみ』北部上北酪農業協同組合 昭和61年



庄内地区 放牧風景

「わたしたちの六ヶ所村」 村教委 平成6年